

2025 年 7 月 6 日（日）第二礼拝「信仰はただイエス様を見ること」ヘブル 12 章 2 節

人が何を見、誰を見るかで、その人は見るものの通りになっていきます。見ることによって感情がその人の心に入り、思いや判断、重要な意志決定がなされていきます。聖書は私たちに「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」と言われます。私たちがイエス様のように喜び、忍耐し、実を結ぶことを願っておられます。

第一番目、救いの喜びです。イエス様は私たちを救うために最初の宣教師となってくださいました。荒野でイスラエルの民が不平不満を言った時、燃える蛇が民に噛みつきました。民が死にゆく中、神様はモーセの祈りを聞かれ、旗ざおの上につけられた燃える青銅の蛇を仰ぎ見る者は生きると言われました。そして、それを仰ぎ見た者は生きました。イエス様はニコデモに「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。…信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」と言われました。イエス様は私たちの救いのために喜んで罪の身代わりとなり、審判を受けられました。私たちもまたイエス様の喜びを持ち、家族や日本、イスラエルに遣わされる宣教師となりましょう。

第二番目、忍耐です。太陽の光を凸レンズで黒紙にあて続けると、煙が出て、火がつきます。しかし、光をあてる点がぶれていると、火がつきません。大事なものは、焦点がぶれずに光をあて続けることです。アブラハムは七十五歳の時、多くの国民の父となるという神様の約束を受けましたが、十年待っても子どもが生まれず、彼の信仰は揺らぎました。アブラハムはエリエゼルを彼の家の相続人として考えていましたが、神様は彼を外に連れ出し、彼の子孫は空の星のようになると約束されました。その通り、アブラハムは百歳で子どもが与えられ、その孫ヤコブは十二人の子どもを生み、その家族七十人がエジプトに下り、四百年後には二百万人以上に増えました。その子孫からダビデやイエス様が生まれました。イエス様の十字架と復活によって、それを信じる人は空の星のように増えました。神様の約束を忍耐を持って見続ける時、聖霊様によって信仰が与えられ、実を結ぶことができるのです。

第三番目、神様の右の座に着座されました。信仰とは望んでいる事柄を保証するものです。パウロはイエス様の十字架を見たことはないけれども、イエス様と共に十字架につけられ、死んで葬られ、よみがえり、共に神様の右の座に着座していると信仰を持って告白しました。アブラハムは土地を頂く前、神様から東西南北を見渡し、そこを歩きなさいと言われた時、それを信じて実行しました。ヤコブは叔父ラバンの家で娘たちとの結婚を理由に無報酬で働かされました。そんな時、ヤコブはしま毛、ぶち毛、まだら毛の羊が彼の財産だという夢を見ました。彼はポプラやアーモンド、すずかけの木の若枝を取り、皮をはいで、白いところをむき出しにし、羊の水ために置き、彼の夢が成るように祈りました。すると、羊がしま毛、ぶち毛、まだら毛のものを産み、彼は大いに富むことになりました。チョー先生は、多くの人が救われてヨイド教会に来ることを思い描いて祈り続け、その通りに主が成してくださいました。このように神様に与えられたビジョンを思い描き、祈り続けることが重要です。